国際マーケティングマネジメント

太田正孝教授

1. 担当教員の専門分野(研究領域)・現在の研究テーマ

当研究指導は国際ビジネス研究におけるマイクロ・レベルの問題、すなわち多国籍企業の戦略と組織の諸問題を取り扱う。とりわけ、グローバル・ナレッジ・エコノミーと呼ばれる現在のグローバル競争環境において、多国籍企業が国境および文化の境界を超えていかに組織学習しながらその組織能力を進化させていくのかが最大の研究テーマ。現在の具体的なテーマの一つはシンガポール現地企業の組織学習プロセスに関するフィールド・リサーチ。アジア・パシフィック地域最大の知識・情報ハブであるシンガポールを中心に展開されるグローバル競争の本質と、そうした競争環境が引き起こすマネジメント・システムの同型化と脱制度化のメカニズムを、制度化理論(institutionalization theory)アプローチを援用しながら解明しようと試みている。

2. 指導方針

基本的な研究アプローチは、1)ビジネスの本質は新しい製品、サービス、マーケット、知識、関係、制度などを切り開き、創造していく社会的機能であること、ならびに、2)グローバル化は結果ではなくプロセスであること、すなわち、国際的に標準化されたシステムやプラクティスは日米欧などの「先発」多国籍企業が様々な現地社会の「後発」多国籍企業を巻き込みながら持続的グローバル競争を展開するなかで、複雑かつダイナミックな制度化プロセスを経て形成され続けているものであるとの認識に基づいている。院生の研究テーマについては特に詳細に決めていないが、自分が真に探求したいテーマについて独創的研究を志向することを重視している。

3. 学生に対する要望・その他

たとえ入学時点における分析技術は未熟でも、自らの問題発見能力と分析能力の向上に努め、そのオリエンテーションに向かって文献研究ならびにフィールド・リサーチを積極的に展開する人を歓迎する。英語が完全な標準言語となっている国際ビジネスを研究するわけであるから、英語の運用能力(少なくとも読解力)は高いことが望ましい。